

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます
No.25 2009.4.15



昭和24年1月9日付「天理時報」

創刊60年に寄せて

『陽気』の名前は

こうして生まれました

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今月で正しく60年を迎えました。これもみなさまのお陰です。今後ともお願いいたします。

ちょうど六十年前の四月、

昭和二十四年の教祖御誕生祭に発行した「創刊号」(五月号)は、一冊定価四十円で、社屋前で露店販売もした。

「陽気、陽気、皆様方のたのしいお道の娯楽雑誌、陽気が生まれました……」

今のギャラリィおやさとの横の社屋二階の「スピーカー」から、本通りを行き交う人々に呼びかける大声が、響き渡った。

ちなみに、教祖御誕生慶祝旬間(四月十八日から二十七日)は、この昭和二十四年から十日間毎日、「かぐらづとめ」がつとめられるようになった。その旬間二日目に、予定部数がほとんど売れている。「陽気」という名前は、おちばがえりの往復旅費を懸賞にした、誌名投票で決定した。創刊三カ月前の昭和二十四年一月九日付「天理時報」に、「大懸賞誌名投票」の文字が



昭和24年1月30日付「天理時報」

すユーモア随筆など、隅から隅まで充実した雑誌です。こういう雑誌にふさわしい名前を皆様方の御投票によって決定し、皆様方の愛児として末永く可愛がっていただきたいのです」

と創刊の思いをつづり、
——和楽 光の園 はっぴ
和楽の友 笑顔 まどい
楽土 陽気クラブ——
の八つから一番よい名前に投票を、と呼びかけた。

そして、一月三十日付「天理時報」に「新雑誌名決定」「陽気」の文字が見える。

一番人気は「一三二六票の「陽気クラブ」、二番人気は「四八一票の「和楽の友」だった。「クラブ」をつけないほうがよい、という意見が多数あり、協議の結果『陽気』と決定したと記されている。抽選の結果選ばれた十名の当選者を名付親に選び、「御誕生祭にはおちばへ御迎えさせて戴きます」とあ



「創刊号」表紙

果選ばれた十名の当選者を名付親に選び、「御誕生祭にはおちばへ御迎えさせて戴きます」とあ

首切りあとの標石

教祖がご在世であった幕末のころは、政変につぐ政変がつづいた時代で、奈良(大和)にも大小の影響があった。

その一つに、有名な天誅組(てんしゅうぐみ)というのがある。脱藩者が中心となってつくられた、武力によって江戸幕府を倒そうとするグループである。文久三年(1863)に



西側の標石は、大和で拳兵し、五条代官所を襲撃、代官を殺害、代官所を焼いた。ところが形勢は一転し、幕府の追討軍に追われ、敗走した。

日、現在の天理市内で捕らえられた。場所は、天理市役所角の交差点から西へ行った一つ目の信号を南へ向かい、丹波市町を北から南へと抜け、名古屋詰所からさらに南へ八百メートルほど行ったところ。今は天理市福知堂町、よく手入れされた藤棚のある小さな公園となっている。

同じ道を北へ五百メートルほどのところ、西に見える池の端に「史跡岡田為恭遭難之地」という標石が立っている。遭難は道の上で起こったが、道幅が狭いので池の端に立てられたのだろうか。

岡田為恭とは、別名冷泉為恭といい、大和絵師であった。天誅組の乱の翌元治元年(1864)、為恭は尊王攘夷の長州過激志士によって首を

はねられた。理由は、為恭が出入りしていた大名家が、彼ら長州志士を弾圧したところの京都所司代であったというこ

とで、為恭自身に特に非があったわけではないようである。幕末の動乱が引き起こした血なまぐさい事件が、おちば近くで起こっていたのだ。その話には、人々の心は戦々恐々とした境地に陥っただろう、もちろん教祖の耳にも届いていたにちがいない。

この二年間に、仲田儀三郎、辻忠作、山中忠七、山沢良治郎、岡本重治郎、飯降伊蔵などの高弟が入信している。元治元年十二月には「つとめ場所」が落成し、三年後の慶応三年(1867)には「みかくらうた『十二下り』の歌」を教えられ、その後三年の間に手振りを教えられている。おつとめを急ぎ込まれたのだ。六ツ むほんのねえをきらふ(二下り目)

人類の母である教祖は、当時の世相に、どれほど胸を痛められたか、今の世相にも：そんな思いが湧いてくる。(参考『山辺の歴史と文化』奈良新聞社)

養徳社 よもやま話
○……小学生の子どもたちが、「春休みだというのに、どこにも連れて行ってくれない」と言うので、バドミントンをしに行こうということになり、近くの公園へ行った。

調子に乗って、小学生相手に本気になって二十分ほど力いっぱい羽を打っていた。
翌日の朝、歯を磨こうと歯ブラシを動かしてびっくり。右腕が痛い、腰が……あれから三、四日経った今も、まだ痛い……
○……先日、一泊二日の日程で作家・立松和平氏を教会本部ほか天理の各所へ案内し、教えの一端にも触れていただいた。テレビなどで素朴な独特の語り口調を耳にされた方も多いと思うが、目の前にして、そのままだと感激した。桜満開の天理と一緒に歩きながら、じんと感じた穏やかな人柄と、人の話に耳を傾ける真摯な姿勢にほれ込んでしまった。立松和平氏の「天理紀行」は、六月号に掲載予定です。お楽しみにしてください。

広告を載せませんか

ようばくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか？ 料金は、記事中で一回二万円から。
詳しくは養徳社広告係まで
☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用いただけますよう、お願い申し上げます。
養徳社

「陽気」創刊60年記念出版

道の八十年

松村吉太郎自伝

初代真柱様との強い絆のもと 一派独立請願運動 教祖四十年祭 倍加運動など 天理教の歴史とともに生き抜いた信仰軌跡

改訂新版

4月18日発売

松村吉太郎 著

(高安大教会初代会長)

四六判並製 400頁

定価=1,680円(税込) ¥200

養徳社

天理市川原城町388
☎(0743)62-4503
http://www12.ocn.ne.jp/~youtoku/

月刊雑誌 おおきな創刊60年

陽気

定期購読をお申込まれたいと

◎毎月発売日にあわせてご自宅、お教会へお届けいたします。

◎買い漏れがなく、毎号確実にお届けいたします。

修養科修了、友人、知人、お世話になった方へ1年間「陽気」をプレゼントしませんか。

お申込は
今すぐ！

〒632-0016 天理市川原城町388 TEL0743-62-4503
FAX0743-63-8077 養徳社 陽気定期購読係まで

『創刊60年定期購読特別割引』

通常 半年分1,420円 → 1,300円 (税込・送料共)

1年分2,840円 → 2,400円 (税込・送料共)

※特別割引は平成21年12月末日お申込分までとなります